

平成22年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に帰す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

このたび、平成22年度野生動物救護実績がまとまりましたので、お知らせします。

1 平成22年度救護数 604点（平成21年度 612点）

2 平成22年度救護数の内訳

区分	種類	数（頭、羽）	数の割合
鳥類	68（60）	509（504）	84.3%（82.4%）
哺乳類	12（12）	95（108）	15.7%（17.6%）
合計	80（72）	604（612）	100%（100%）

*（ ）内の数字は、平成21年度

3 平成22年度の特徴

（鳥類）

- ツバメ、スズメ、キジバト、ムクドリ、ヒヨドリ等が上位を占めており、この顔ぶれは例年とほぼ同様です。
- 稀な例として、22年9月にアカショウビン（写真1、伊勢原市板戸）、12月にミミカイツブリ、23年1月にタゲリ（写真2、平塚市豊田）が保護されてくるなど、県内ではあまり見られない野鳥が救護されました。県レッドリストでも、アカショウビンは繁殖期・絶滅危惧類に、タゲリは非繁殖期・絶滅危惧類に区分されており、県下でも希少な種となっています。

（哺乳類）

- タヌキが46頭と全体の約半数を占めていますが、疥癬症（ダニが原因でおこる皮膚病）に罹るタヌキは、頭数、割合とも、やや歯止めがかかった感があります。
- タヌキ以外では、アブラコウモリ、アズマモグラ、アカネズミ等の小型哺乳類の保護が目立ちました。

（ボランティア）

- 当センターには、野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている野生動物救護ボランティアの方が多数います。
- 野生動物救護ボランティアには、一般ボランティア（*1）、短期ボランティア（*2）及び長期飼養ボランティア（*3）の3種類がありますが、22年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ1,310人で、19年度以降、毎年1,000人を超える方々にご参加いただいています。また、短期・長期飼養ボランティアに飼養を依頼した野生動物の数も57件にのぼり、大きな成果をあげています。

問い合わせ先

神奈川県自然環境保全センター

自然保護公園部長 濱名 電話 046-248-0323

野生生物課長 木佐貴 電話 046-248-6682

*1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣の世話や救護された動物のデータ解析、学校等へ出向いての環境教育、普及啓発活動などを行っていただいております。

*2 短期飼養ボランティア

毎年5月から8月くらいまでの間、ツバメ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなど、主に巣立ち前の野鳥のヒナ等の世話を30日程度行っていただいております。

*3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。



(写真1) <伊勢原市内で救護され、野生復帰したアカショウビン>



(写真2) <平塚市内で救護され、片翼を失ったためセンターで飼養しているタゲリ>

添付資料 平成22年度野生動物救護実績(概要版)